

九州女子高等学校

中央区荒戸3-4-62

用途: 学校

完成: 1997年

所有者: 学校法人 九州女子高等学校

設計者: (株)一社社フォーリス建築事務所九州事務所/
那の津建築研究所

施工者: (株)竹中工務店九州支店/
戸田建設(株)九州支店/
九州建設(株)

那の津通りの西端近くに位置する校舎群は、それぞれ建築時期が異なるにも関わらず統一感があり、施主の一貫した姿勢が伺え、今やこの通りのランドマークになっている。通りと敷地の境界の鉄橋は教育現場の安全を象徴しているが、橋ではなく柵であるので女子教育にありがちな閉鎖性を主張することなく、建築壁面までの視線のゆとりを可能として、芝生広場と共に全体的な優しさを醸し出している。特に建学の精神の一つである「優しく」を具現化している芝生広場の空間は命を育む女性の懐や包容力を象徴している様に思える。空間の意義を再確認し、今後この広場が記念樹等の植栽場所に専有されること無く「空き」や「間」も大切だということが教育に生かされていくことを願う。

(審査委員 岡本 均)



アイランドシティ コンテナクレーン

東区香椎浜3-25

用途: コンテナクレーン

完成: 2003年5月

所有者: 福岡市

設計者: 佐藤 優 / (株)ZEN環境設計/
JFEエンジニアリング(株)

施工者: JFEエンジニアリング(株)



市民が親しみを持つ博多湾岸の主な景観は、能古島の緑、ビル街のシルエット、クレーンが立ち並ぶ港湾施設であろう。船舶荷役の取扱量が漸増している博多港で今年5月、香椎浜に新しいクレーンが出現した。クレーンや鉄塔など大型構造物は赤白の塗分けで航空障害物である表示を行う。本件では、弓状で見通しがよく湾岸景観に配慮し、赤白面積比を大きく変えた色彩計画が高く評価された。クレーンは主色の白に機構ごとのさし色を加え、巨大なタンチョウヅルにも見える。市民生活を陰で支える仕事場のトータルデザインである。そこで働く人にも海の風景を愛する人にも心地よく親しみやすい色彩は、博多湾の魅力をもさらに引き立ててくれるに違いない。(審査委員 永崎 明子)

次郎丸3丁目の 白壁通り

早良区次郎丸3丁目

延長約600m



この通りには白壁の民家が数棟残されているが、それが単に残っているというだけでなく、維持のためによく手が加えられている。同時に、伝統的な民家以外の建物もこの街並みに対する気配りが感じられる。そして、それらが彎曲した道と相まって魅力的な街並み景観を演出している。こんにち、伝統的な街並みを維持するには、保存地区に指定されるか観光商業地として活用するかといったことが一般的な手立てとなっている。しかし、ここはそのどちらでもない。にもかかわらず、このように歴史的景観を持続しているのは、その価値が地域の人々に共有され、それが誇りとなっているからだろう。この通りの落ち着いた行まいは、街並みを維持することの真の意義を問いただしているかのようである。

(審査委員 菊地 成明)